

MAKE-UP COSMETIC**Publication number:** JP61158913**Publication date:** 1986-07-18**Inventor:** OKUNUKI YUTAKA; ISHIWATARI MASAOKI; IKEDA
TOSHIHIDE; NANBA TOMIYUKI**Applicant:** SHISEIDO CO LTD**Classification:**

- International: A61K8/00; A61K8/25; A61K8/27; A61K8/31; A61K8/89;
A61K8/891; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/04;
A61Q1/10; A61Q1/12; C08L83/04; A61K8/00;
A61K8/19; A61K8/30; A61K8/72; A61Q1/00;
A61Q1/02; A61Q1/12; C08L83/00; (IPC1-7): A61K7/02

- European: A61Q1/00; A61K8/25; A61K8/31; A61K8/891

Application number: JP19840279161 19841229**Priority number(s):** JP19840279161 19841229**Report a data error here****Abstract of JP61158913**

PURPOSE: To provide a make-up cosmetic containing a specific organic silicone resin, a volatile hydrocarbon oil and powder, spreadable easily over the skin, giving refreshing feeling to the skin, and having excellent resistance to water, sweat and oil and high durability on the skin.

CONSTITUTION: The objective make-up cosmetic contains (A) 1-70wt% organic silicone oil of formula (R is 1-6C hydrocarbon group or phenyl; n is 1.0-1.8), (B) 10-98wt% volatile hydrocarbon oil having a boiling point of 60-260 deg.C, and (C) 0.5-55wt% powder. The average molecular weight of the component A is preferably 1,500-10,000, and the component C is e.g. talc, calcium carbonate, zinc white, red iron oxide, etc. The above essential components may be further compounded with an aqueous component and a proper surfactant to obtain a W/O-type or O/W-type emulsified make-up cosmetic while keeping high durability on the skin.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-158913

⑥ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和61年(1986)7月18日

A 61 K 7/02

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

④ 発明の名称 メーキャップ化粧料

② 特 願 昭59-279161

③ 出 願 昭59(1984)12月29日

⑦ 発 明 者	奥 貫 裕	横浜市港北区新羽町1050番地	株式会社資生堂研究所内
⑦ 発 明 者	石 渡 正 昭	横浜市港北区新羽町1050番地	株式会社資生堂研究所内
⑦ 発 明 者	池 田 敏 秀	横浜市港北区新羽町1050番地	株式会社資生堂研究所内
⑦ 発 明 者	難 波 富 幸	横浜市港北区新羽町1050番地	株式会社資生堂研究所内
⑦ 出 願 人	株 式 会 社 資 生 堂	東京都中央区銀座7丁目5番5号	

明細書

1. 発明の名称

メーキャップ化粧料

2. 特許請求の範囲

(I) 下記(A)で示される有機シリコン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性炭化水素油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含むことを特徴とするメーキャップ化粧料。

(A) 平均式 $R_n SiO_{\frac{4-n}{2}}$ (Rは炭素数1~6までの炭化水素基またはフェニル基を表し、nは1.0から1.8までの値を表す)の単位からなる有機シリコン樹脂。

(B) 室温における沸点が60~260℃の範囲にある揮発性炭化水素油。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はメーキャップ化粧料、さらに詳しくは

耐水性、耐汗性および耐油性良好で、化粧もちに優れたメーキャップ化粧料に関する。

本発明でいうメーキャップ化粧料は通常のメーキャップ化粧料に加えてその下地に用いる化粧下地をも包含する。

〔従来の技術〕

メーキャップ化粧料は、粉末と油分とを配合してなる固形ファンデーション、固形アイシャドー油性ファンデーション、口紅など種々の形態と種類がある。また乳化系をベースとした乳化ファンデーションなどもあるが、いずれもタルク、カオリン、酸化鉄、酸化チタン、チタン・マイカ系パール顔料などの無機粉末およびナイロン、セルロース、タール顔料などの有機顔料を多く含むことが特徴である。

これらのメーキャップ化粧料は、皮脂や汗あるいはほかの化粧料の油分などによって、よれたり、流れたり、化粧くずれを生じる。とくに夏季の高温多湿条件下の化粧くずれは、女性共通の悩みとして改良が望まれていた。

耐水性、耐油性良好なメーキャップ化粧料としてはエチルヒドロキシエチルセルロースを皮膚剤として用いる技術(特開昭53-62994号公報)などが知られているが、実際の使用における化粧もちの点でまだ満足できるものではない。

一方、化粧下地はメーキャップ化粧料ののりをよくしたり仕上りをきれいにする目的で使用されるが、メーキャップ化粧料の化粧もちを考慮しているものは少ない。

[発明が解決しようとする問題点]

本発明者らは、このような事情にかんがみ、化粧くずれ防止効果に優れたメーキャップ化粧料を得ることを目的に鋭意研究を行った結果、特定の有機シリコン樹脂を揮発性炭化水素油とともに用い、これに粉末を加えたならば、のびがよく、さっぱりとした使用感を有しかつ化粧くずれ防止効果良好なメーキャップ化粧料が得られることを見出し、この知見にもとづいて本発明を完成するに至った。

[問題点を解決するための手段]

一般式 R_3SiX 、 R_2SiX_2 、 $RSiX_3$ および SiX_4 (Xは加水分解し得る基、たとえば塩素、酸素、弗素、アルコキシ、たとえばメトキシ、エトキシなどの基、アシロキシ基を表す) で示される化合物を、目的とする樹脂組成に応じてトルエン、ベンゼン、キシレンなどのごとき適当な溶媒に添加し、次いでこの溶媒を適当な酸性溶媒中における希望する加水分解および共縮合を得るに充分な量の水の中に加える。こうして得られた二相系から水相を除去し、残留する樹脂状物質を重炭酸ナトリウムあるいは他のアルカリ性物質の充分量を用いて中和し、溶媒を留去すれば目的の有機シリコン樹脂が得られる。

本発明における有機シリコン樹脂の配合量は皮膚化粧料全量中の1~70重量%である。

また、本発明で用いる揮発性炭化水素油は室温における沸点が60~260℃の範囲にある炭化水素油であり、たとえば、アイソパー(登録商標)A、同C、同D、同E、同G、同H、同K、同J、同M(エクソン社)、シェルゾール(登録商標)71、

すなわち、本発明は、下記(A)で示される有機シリコン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性炭化水素油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含有することを特徴とするメーキャップ化粧料である。

(A) 平均式 $R_nSiO_{\frac{4-n}{2}}$ (Rは炭素数1~6までの炭化水素基またはフェニル基を表し、nは1.0から1.8までの値を表す)の単位からなる有機シリコン樹脂。

(B) 室温における沸点が60~260℃の範囲にある揮発性炭化水素油。

本発明で用いる上記(A)で示される有機シリコン樹脂は $R_3SiO_{\frac{1}{2}}$ 単位、 R_2SiO 単位、 $RSiO_{\frac{1}{2}}$ 単位および SiO_2 単位のうちの適当な組合せからなり、その割合は平均式 $R_nSiO_{\frac{4-n}{2}}$ (nは1.0から1.8までの値を表す)を満足するように選ばれ、約1500~10000までの平均分子量を有することが望ましい。

上記有機シリコン樹脂はベンゼンに可溶であり、各種の方法で製造し得る。一例をあげると、

(シェル社)、ソルトロール(登録商標)100、同130、同220(フィリップ社)などをあげることができる。

これらは、いずれも揮発性であって、かつ有機シリコン樹脂に対して溶媒となり得る。

配合量は、皮膚化粧料全量中の10~98重量%である。

また本発明で用いる粉末は一般にメーキャップ化粧料に用いられる粉末であって、たとえば、タルク、マイカ、カオリン、炭酸カルシウム、亜鉛華、二酸化チタン、赤酸化鉄、黄酸化鉄、黒酸化鉄、群青、紺青、水酸化クロム、オキシ塩化ビスマス、チタン-マイカ系パール顔料などの無機粉末類、および赤色201号、赤色202号、黄色5号アルミニウムレーキ、青色1号アルミニウムレーキなどの有機粉末類、ナイロン、セルロース、ポリエチレンなどの樹脂粉末類、各種金属顔料などを例示することができる。

配合量はメーキャップ化粧料全量中の0.5~55重量%である。

当然のことながら、上記必須成分に加えて、水性成分および適切な界面活性剤を配合して乳化技術を駆使することによって、化粧くずれ防止効果を有したままで油中水型あるいは水中油型の乳化型ノーキャップ化粧料にすることも可能である。

本発明のノーキャップ化粧料には上記の他に、目的に応じて本発明の効果を損なわない量的、質的範囲内で、さらに油脂類、ロウ類、薬剤、香料あるいは他の揮発性成分等を配合しても良い。

以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明する。本発明は、これらによって限定されるものではない。配合量は全て重量%である。

実施例1 油性ファンデーション

① カオリン	25.0
② 二酸化チタン	15.0
③ 酸化鉄	3.0
④ マイクロクリスタリンワックス	4.0
⑤ 流動パラフィン	5.0
⑥ ソルビタンセスキオレート	1.0
⑦ 約3000の分子量を有し、かつ	

⑧ ソルビタンセスキオレート	1.0
⑨ エチルヒドロキシエチルセルロース	10.0
⑩ エタノール	10.0
⑪ アイソパー（登録商標）E	

（沸点 116～143℃）

残余

⑫ 香料	適量
------	----

⑦、⑧を70～80℃で攪拌溶解した後、⑨に分散させ、④～⑥を加えて加熱溶解する。①～③を加えて均一に分散し、脱気後⑩を加えて攪拌した後、所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1、比較例1について以下の評価を行った。

水またはスクワレンをしみ込ませた濾紙を用意し、これに実施例1または比較例1を塗布して乾燥させたナイロン板を圧着して10回の上下動を行う。上下動終了後のナイロン板から濾紙上への資料の転写量を色の濃さで肉眼判定する。

【評点】

1 全く転写しない。

$(CH_3)_3SiO_{\frac{1}{2}}$ 単位：

SiO_2 単位 = 1.5:1 からなる

平均式 $(CH_3)_{1.8}SiO_{1.1}$ で表

される有機シリコン樹脂 2.0

⑬ アイソパー（登録商標）E

（沸点 116～143℃）

残余

⑭ 香料

適量

④～⑥を70～80℃で攪拌溶解した後、①～③を加えて分散する。脱気後⑩を加えて所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1の油性ファンデーションは耐水性、耐油性、耐汗性に優れた化粧くずれの少ないノーキャップ化粧料であり、使用感もさっぱりしたものであった。

比較例1 油性ファンデーション

① カオリン	25.0
② 二酸化チタン	15.0
③ 酸化鉄	3.0
④ マイクロクリスタリンワックス	4.0
⑤ 流動パラフィン	5.0

2 わずかに転写する。

3 転写が著しい。

結果は合計5回の実験測定の平均値で表1に示す。

表1

	水	スクワレン
実施例1	1.0	1.0
比較例1	2.2	2.8

従来のもちのよい油性ファンデーションである比較例1に比べても、実施例1は水やスクワレンに落ちにくい、すなわち、耐水性および耐油性良好な化粧もちに優れたノーキャップ化粧料であることがわかる。

（以下 余白）

実施例2 液状口紅

- ① アイソパー (登録商標) A
(沸点 66~70℃) 20.0
- ② ソルトロール (登録商標) 220
(沸点 240~260℃) 20.0
- ③ 約5000の分子量を有し、かつ
(CH_3)₃SiO $\frac{1}{2}$ 単位:
SiO₂ 単位 = 0.5:1 からなる
平均式 (CH_3)_{1.0}SiO_{1.5} で表
される有機シリコン樹脂 40.0
- ④ グリセリルトリスステアレート 10.0
- ⑤ 赤色 226号 10.0
- ⑥ 香料 適量

①~⑤を50~60℃で攪拌溶解し、別に④と⑥をローラー処理したものを加えて分散する。脱気後⑥を加えて液状口紅を得た。

実施例2の液状口紅は耐水性、耐油性、耐汗性に優れ、またコップなどへの付着による化粧くずれも少ないものであった。使用感もさっぱりしていた。

- ② 二酸化チタン 5.0
- ③ 酸化鉄赤 0.3
- ④ 酸化鉄黄 0.2
- ⑤ メチルフェニルポリシロキサン
($n = 100$) 20.0
- ⑥ ソルトロール (登録商標) 100
(沸点 160~175℃) 10.0
- ⑦ 固形パラフィン 5.0
- ⑧ マイクロクリスタリンワックス 4.0
- ⑨ ソルビタンセスキオレート 1.0
- ⑩ 約3000の分子量を有し、かつ
(CH_3)₃SiO $\frac{1}{2}$ 単位:
(C_6H_5)₂SiO₂ 単位:
(C_6H_5)₃SiO $\frac{3}{2}$ 単位:
SiO₂ 単位 = 0.9:0.1:0.2:1
からなる平均式
(CH_3)_{1.23}(C_6H_5)_{0.19}SiO_{1.30}
で表される有機シリコン樹脂 2.0
- ⑪ アイソパー (登録商標) H
(沸点 171~193℃) 24.5

実施例3 マスカラ

- ① シェルゾール (登録商標) 71
(沸点 173~195℃) 4.5
- ② 約2000の分子量を有し、かつ
(CH_3)₃SiO $\frac{1}{2}$ 単位:
SiO₂ 単位 = 0.8:1 からなる
平均式 (CH_3)_{1.33}SiO_{1.34} で表
される有機シリコン樹脂 70.0
- ③ 酸化鉄黒 15.0
- ④ P.O.E. (20モル) ソルビタン
モノラウレート 0.5
- ⑤ 香料 適量

①~⑤を70~80℃で攪拌溶解後、④および⑤を添加して分散する。脱気後⑥を加えてマスカラを得た。

実施例3のマスカラは涙などによる化粧くずれも少なく、まぶたへの付着もないマスカラであった。

実施例4 化粧下地

- ① カオリン 10.0

- ② 香料 適量
- ①~④を混合粉砕する。別に⑤~⑦を70~80℃で混合溶解する。両者を攪拌混合し、脱気後⑧を加えて化粧下地を得た。

実施例4の化粧下地は、このものの上に重ねるメーキャップ化粧料ののりをよくし、化粧くずれも抑える効果を有していた。

実施例5 ハイライター

- ① ソルトロール (登録商標) 130
(沸点 170~208℃) 95.0
- ② 約8000の分子量を有し、かつ
(C_6H_5)₂SiO $\frac{3}{2}$ 単位:
(CH_3)₂SiO 単位 =
5.67:1 からなる平均式
(CH_3)_{0.30}(C_6H_5)_{0.85}SiO_{1.43}
で表される有機シリコン樹脂 4.5
- ③ チタン-マイカ系パール顔料 0.5
- ④ 香料 適量
- ①および②を加熱溶解し、③④を加え分散してハイライターを得た。

実施例5は化粧くずれが少なく、さっぱりした使用感のハイライターであった。

[発明の効果]

本発明のメーカーシップ化粧料は耐水性、耐汗性および耐油性良好で化粧料もちに優れ化粧くずれが少ないメーカーシップ化粧料である。さらに、使用感触も、のびがよく、さっぱりしていて優れている。

特許出願人 株式会社 資生堂

手続補正書 (自発)

昭和60年4月17日

特許庁長官 志 賀 学 殿

適

1. 事件の表示

昭和59年特許願第279161号

2. 発明の名称

メーカーシップ化粧料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都中央区新富町五番五号

名 称 (195) 株式会社 資生堂

代表者 大野良雄

4. 補正の対象

明細書の特許請求の範囲の欄および発明の詳細な説明の欄

5. 補正の内容

- (1) 明細書の特許請求の範囲を別紙のとおり補正します。
- (2) 明細書第4頁第10行目「室温」とあるを、「常圧」と補正します。
- (3) 明細書第5頁第16行目「室温」とあるを、「常圧」と補正します。

以 上

(別紙)

2. 特許請求の範囲

(1) 下記(A)で示される有機シリコーン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性炭化水素油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含有することを特徴とするメーカーシップ化粧料。

(A) 平均式 $R_n SiO_{\frac{n-1}{2}}$ (Rは炭素数1~6までの炭化水素基またはフェニル基を表し、nは1.0から1.8までの値を表す)の単位からなる有機シリコーン樹脂。

(B) 常圧における沸点が60~260℃の範囲にある揮発性炭化水素油。